

第401回NRIメディアフォーラム

テクノロジーが創出する新しい高齢者就労の在り方
～ロボット、VR・AR、アシストスーツ、ドローンは長く、身体に負担なく、
生きがいを持って働き続けられる社会の形成にいかに貢献するか～

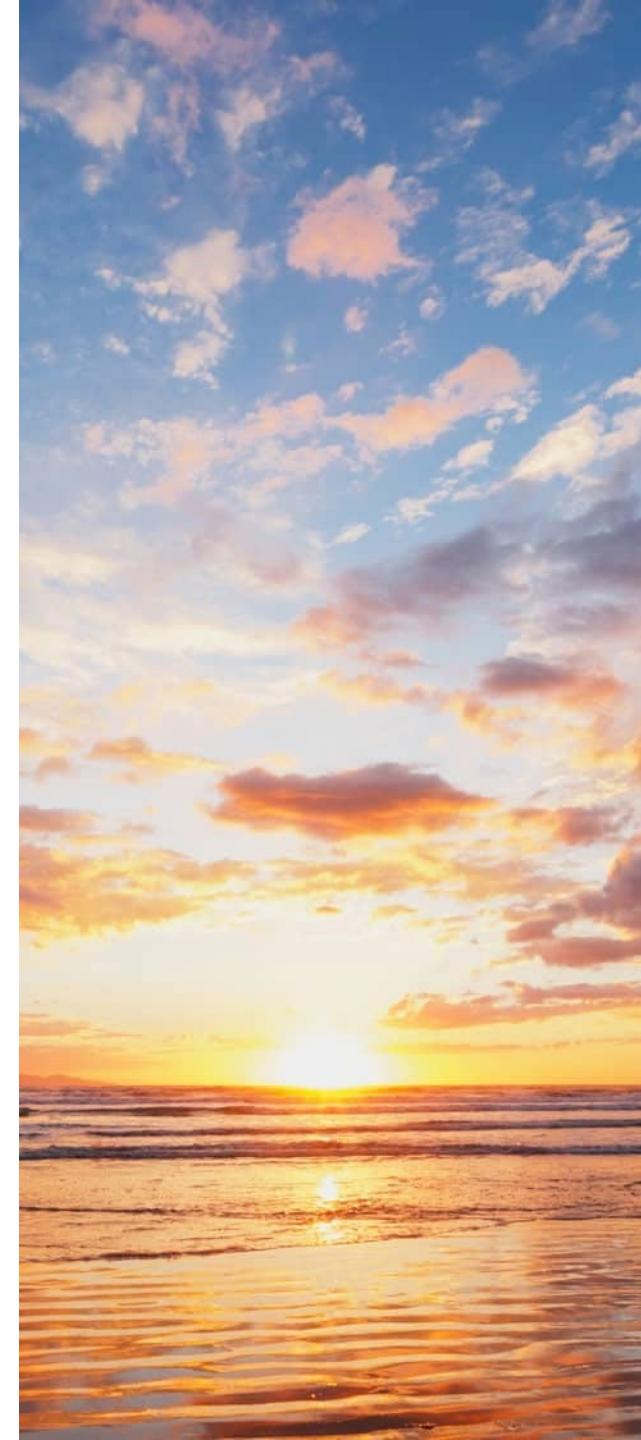
株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業本部
社会システムコンサルティング部

シニアコンサルタント 坂田 彩衣
シニアチーフコンサルタント 小松 隆
コンサルタント 白賀 可奈

2026年2月

NRI

Envision the value,
Empower the change



00 調査背景

01 調査概要

02 アンケート調査結果

03 先進事例調査

04 調査まとめと今後への展望

調査背景



調査背景 | 高齢者就労を取り巻く課題論点と本企画の焦点

以前より存在していた高齢者就労の社会的課題に、「テクノロジーを活用した就労機会の創出」という新たな視点を追加して、本調査を企画・設計した

人口動態・社会の変化

高齢者就労の機会つくり

テクノロジー活用

これまでの主な論点

労働力不足の解消や、社会保障制度の持続（年金・医療・介護）など社会的要請による高齢者就労

求人情報を前提とした、高齢求職者との間の需給マッチングの効率化の観点

- ・高齢者へのデジタルリスキリングの要求
- ・生成AIに仕事が代替される脅威



上記に加えて本企画がフォーカスする論点

高齢者個人の視点にたった、生きがい創出、強みの発揮、身体的負担軽減、ワークスタイル変革の観点

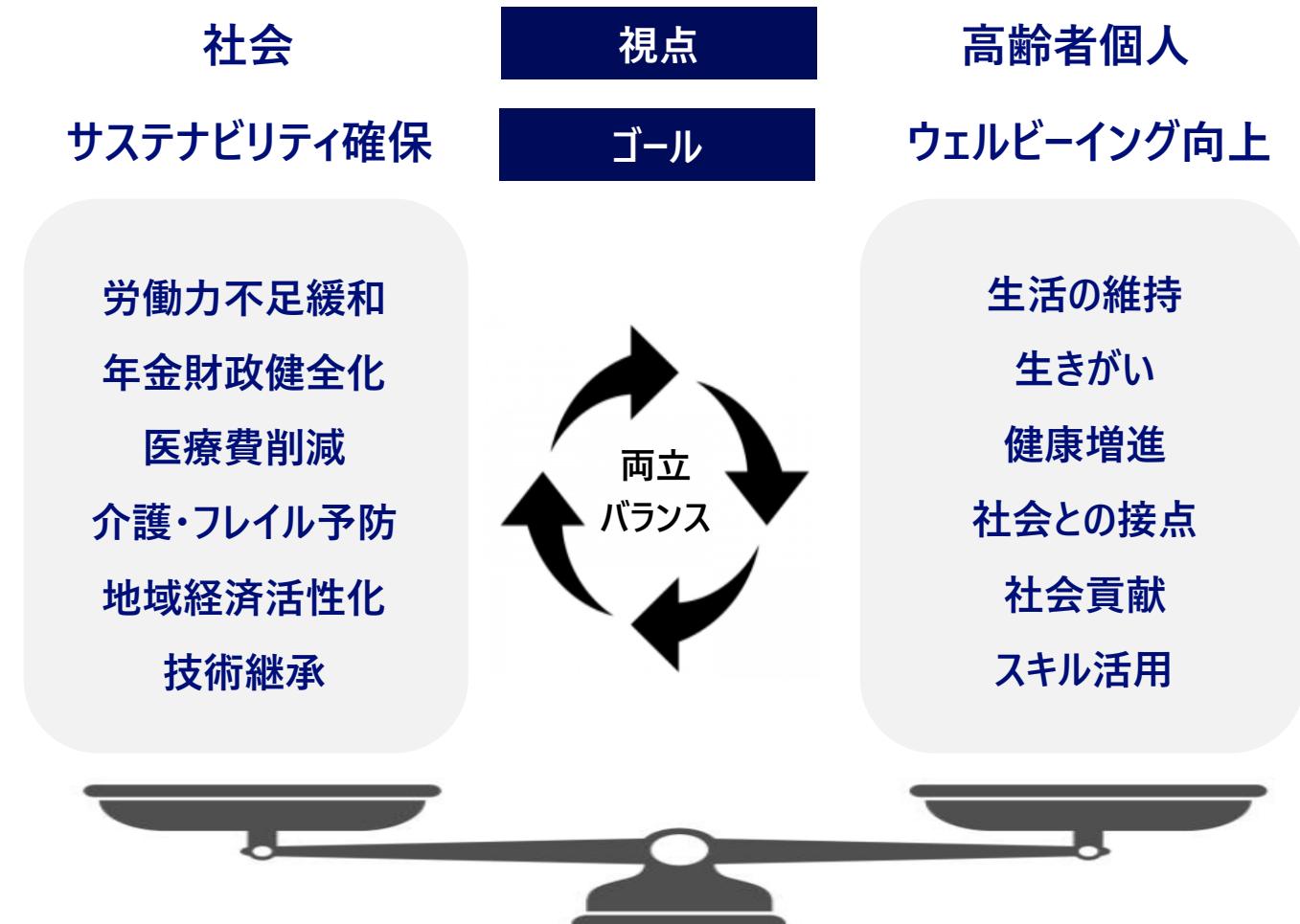
高齢者に適した働き方を新たに「創出する」という観点

ロボット、VR・AR、アシストスーツ、ドローンなどの高齢者就労への積極活用

調査背景 | 超高齢社会が目指すべき高齢者就労の形

社会保障制度の持続や労働力不足の解消など、高齢者の就労への社会からの要請は高まる一方で、高齢者個人の視点で見た「働く意義」が軽視されないバランスが重要となる

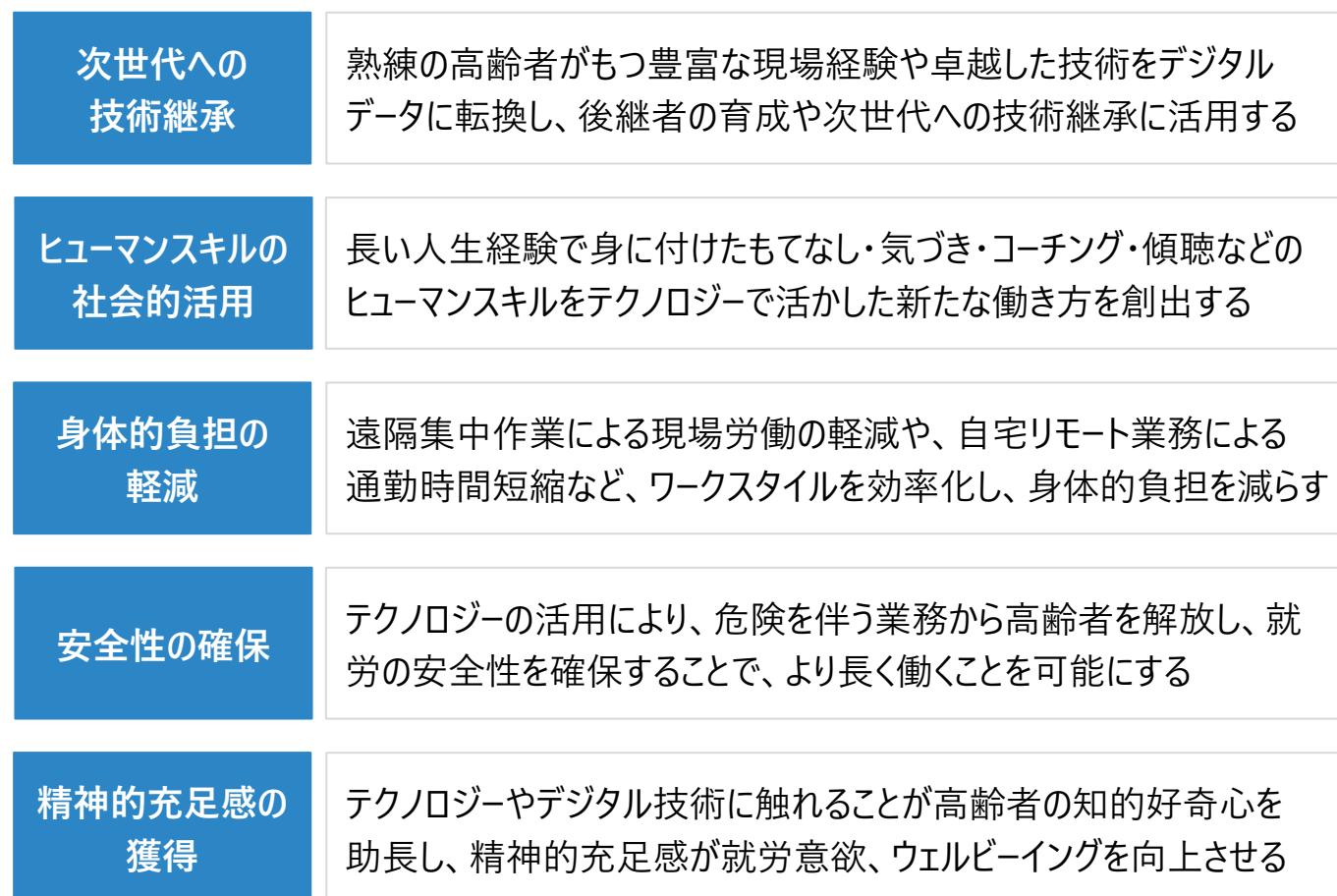
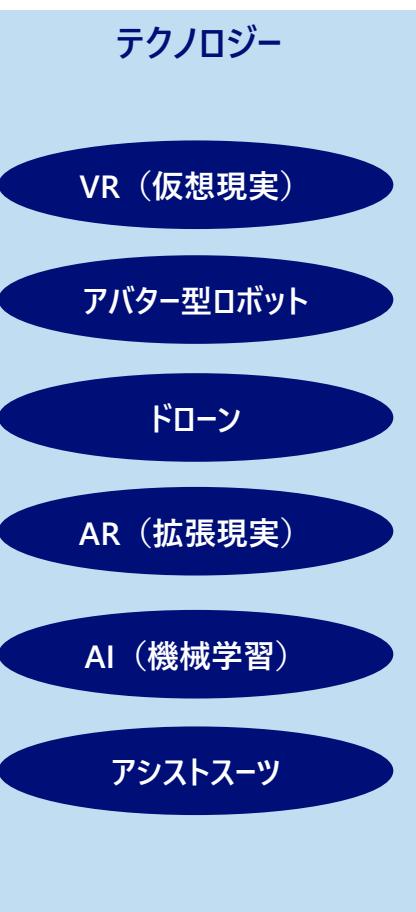
超高齢社会が目指すべき高齢者就労の形



調査背景 | テクノロジー活用が高齢者の就労にもたらす効果

働き続けたいと考える高齢者の就労にテクノロジーがもたらす効果は、
「社会の視点」と「高齢者個人の視点」の両面において大きな意味をもつ

テクノロジーの活用が社会や高齢者個人にもたらす効果



調査概要



調査概要

プレシニア就労者*に対して、アンケート調査を行うとともに、先進事例に関するインタビュー調査を実施することで、テクノロジーを活用した高齢者就労に対する考え方について整理を行った

インターネットアンケート調査

- 調査名：テクノロジーを活用した高齢期の就労に関する調査
- 調査実施期間：2025年06月27日(金)～2025年06月28日(土)
- 調査手法：インターネットアンケート
- 調査対象：全国の45～64歳の就労者男女2,272人
 - うち、無効回答者を除く2,197人を本調査における実質の調査対象とする
 - *本調査では、45～64歳の就労者を「プレシニア就労者」と表現する
- 内訳：45～49歳、50～54歳、55～59歳、60～64歳×男女の計8セグメントにおいて各284人
※調査結果の数値は、厚生労働省「労働統計要覧（令和5年度）」に基づき、
人口構成比に合わせてウエイトバック処理を実施

先進事例調査

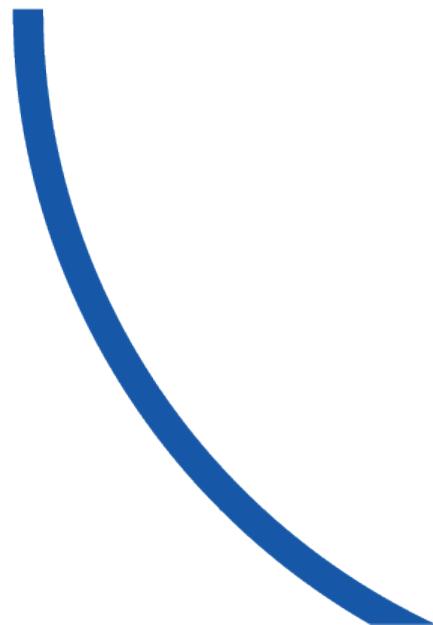
- テクノロジーの活用により高齢者が新しい働き方をしている事例についてインタビュー調査
 - ① VR（仮想現実）を活用した伝統工芸の技術継承 | 公立大学法人宮城大学
 - ② アバター型ロボットによる遠隔からの接客・ガイド | avatarin株式会社
 - ③ ドローンによる空き家管理における空撮 | 公益社団法人南砺市シルバー人材センター
 - ④ AR（拡張現実）を活用した遠隔からの作業員指導 | 東芝システムテクノロジー株式会社
 - ⑤ AI（機械学習）アノテーション業務 | 株式会社ライトカフェ×公益社団法人八戸市シルバー人材センター
 - ⑥ アシストスーツを活用した農作物の収穫作業 | 株式会社イノフィス

【参考】インターネットアンケート調査での質問項目

■ 設問内容（一部）

- 属性
 - 性年代
 - 年収
 - 居住地
 - 未既婚、子どもの有無
 - 現在の職種、雇用形態
 - 家計状況
- 就労への考え方
 - 何歳まで働き続けたいか
 - 現在働いている理由
 - 65歳以降の働き方
 - 65歳以降働き続ける場合の不安
 - 65歳以降も働き続けるために必要な支援
- テクノロジーの関心、使用度合
 - スマートフォンの利用レベル
 - 関心のあるテクノロジー・デジタル技術
 - テクノロジーへの考え方
- テクノロジーを活用した就労について
 - テクノロジーを活用した就労への関心
 - テクノロジーを活用した就労の社会全体での必要性
 - 具体的なテクノロジーを活用した就労の認知度
 - 具体的なテクノロジーを活用した就労への関心
 - 具体的なテクノロジーを活用した就労の社会全体での必要性

アンケート調査結果



アンケート調査結果 | 65歳以降の働き方についての意向（男女別）

65歳以降の就労意向として、男女ともに「体力の負担軽減」や「今の仕事の長期継続」など持続可能な就労を望む傾向がみられたが、特に女性でその意向が大きかった

- 男女ともに「体力の負担が少ない仕事を続けたい」や「今の仕事を長く続けたい」という意欲が高い。
- 男女で比較すると、男性は「新たなスキル・知識の獲得（59%）」や「異なる仕事への挑戦（41%）」など、キャリアの再構築に対する意欲が女性より高い一方、女性は「体力の負担が少ない働き方（91%）」や「今の仕事をできるだけ長く（82%）」など、体力の負担を抑えた持続可能な働き方に対する意欲が高い傾向がみられた。

65歳以降にどのような働き方をしたいと思うかについての意向（男女別）

（※65歳以降も働き続けたい人のみ回答）

※本グラフの割合は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の4段階の選択肢のうち、肯定的回答である上位2項目（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」）の合計値を示している。

※男女合計の回答者比率の降順で並べている。

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



男性 (N=431)

女性 (N=489)

アンケート調査結果 | 65歳以降働き続けるときの不安要素（男女別）

65歳以降の就労継続に抱く不安は、女性は男性と比較して全体的に強く、特に報酬の減少や、健康状態の悪化、認知力やスキルの低下などに対して集中している

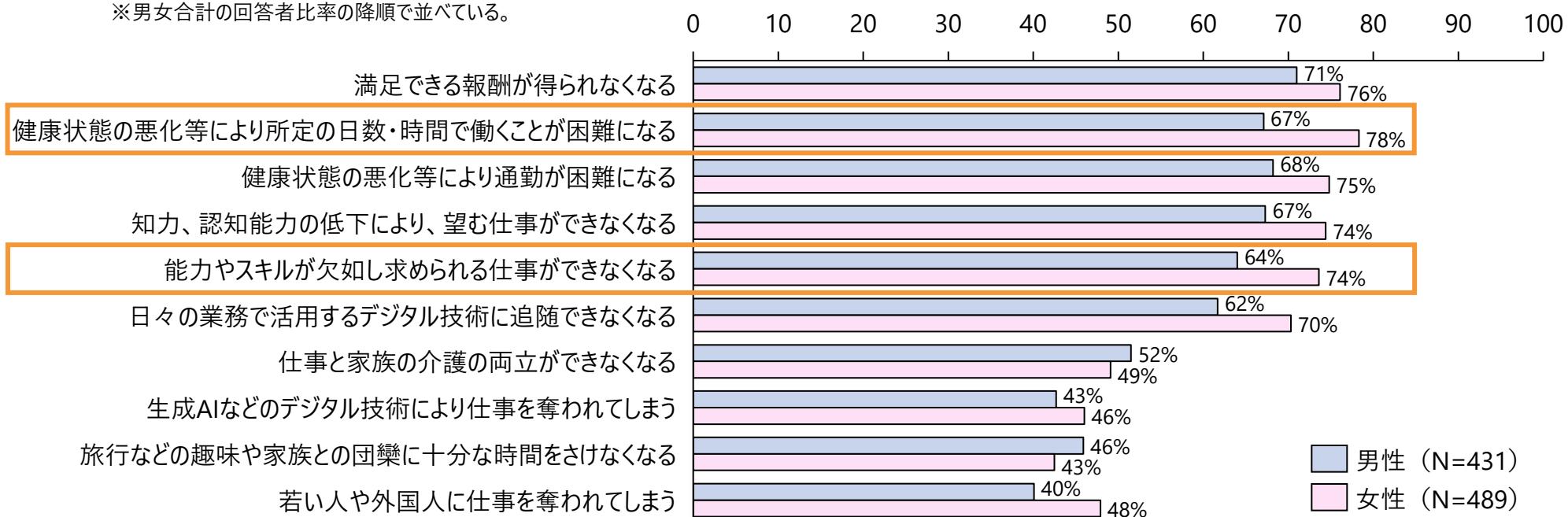
- 多くの項目で女性の割合が男性の割合を上回り、女性の方が、より就労に対する不安を抱えている傾向がある。
- 特に「所定の日数・時間で働くことが困難になる」や「能力・スキルの欠如で仕事ができなくなる」の項目で男女で10%以上の差が見られ、女性は加齢に伴うパフォーマンスの低下をより強い不安要素として捉えている傾向がみられた。

65歳以降も働き続けるときの、具体的な不安要素（男女別）

（※65歳以降も働き続けたい人のみ回答）

※本グラフの割合は、「とても不安を感じる」「やや不安を感じる」「あまり不安に感じない」「不安に感じない」の4段階の選択肢のうち、不安を感じている上位2項目（「とても不安を感じる」「やや不安を感じる」）の合計値を示している。

※男女合計の回答者比率の降順で並べている。

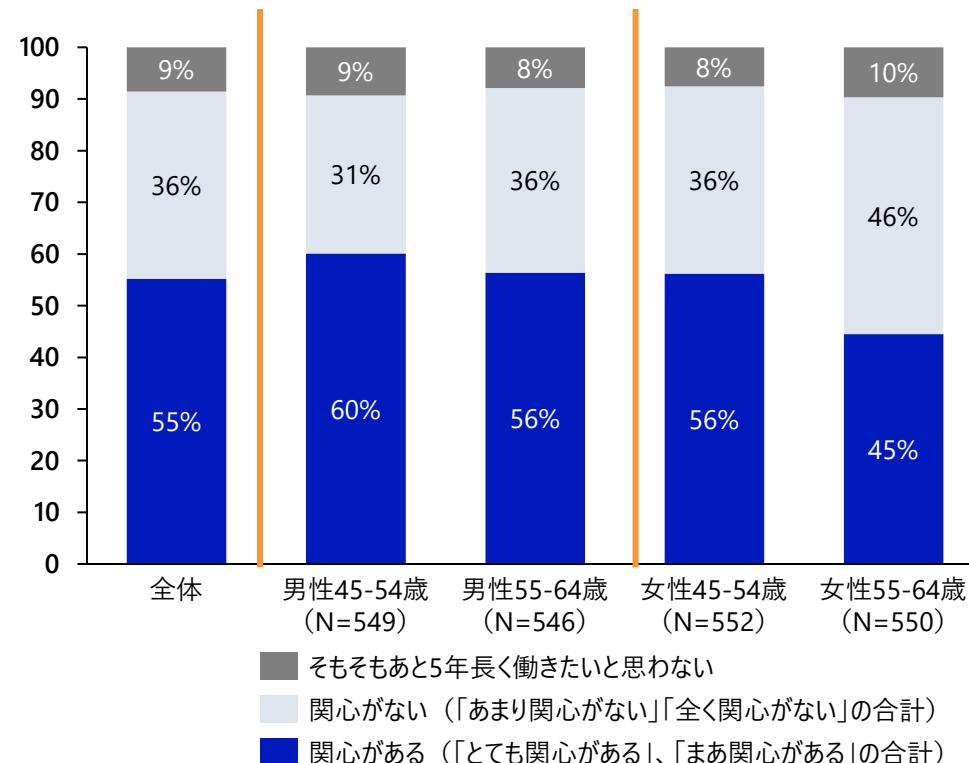


アンケート調査結果 | テクノロジーやデジタル技術を活用してより長く働くことへの関心（性年代別）

プレシニア層の中でも45-54歳では、男女とも半数以上が「テクノロジーやデジタル技術を活用してより長く働くこと」に関心があるが、55歳を超えると関心度の下がり方に男女差が見られる

- 男女で比較すると、男性は女性より、テクノロジーやデジタル技術を用いて長く働くことへの関心が高い。
- 55-64歳の女性は、45-54歳と比較し関心の下がり方が男性よりも大きい。
- 一方で、「そもそもあと5年長く働きたいと思わない」と回答した人は、どの性年代でも1割弱存在する。

テクノロジーやデジタル技術を用いることで想定しているよりあと5年長く働けるとしたときの、
テクノロジーやデジタル技術を用いた働き方への関心（性年代別）



アンケート調査結果 | 具体的な働き方のイメージの提示例

テクノロジーやデジタル技術を活用した働き方について具体的なイメージを持った上で回答してもらうために、下記の画像を掲示して、それぞれの働き方について質問を行った（結果は次頁参照）

インターネットアンケート調査で回答者に提示した「テクノロジーやデジタル技術を活用した就労」の事例イメージ

テクノロジーやデジタル技術を活用した高齢期の働き方

①アバターロボットを活用した遠隔接客・遠隔ガイド

アバターロボットを遠隔地から操作し、飲食店での接客や、観光施設での案内・ガイドをする仕事です。地理的・身体的制約があっても自宅から操作することができるため負担が少なく、かつコミュニケーション能力を活かすことができるため高齢人材に適した仕事といえます。

アバターロボット「newme」



出所) avatarin株式会社のHP



イメージ図

②ドローン等を活用した空き家管理・農業など広域仕事

ドローンを用いることで、敷地内に入りづらい空き家の空撮や点検を安全に、広大な農地での農薬散布や生育状況把握などを効率的に行うことができます。人手作業に比べて身体的負担が少なく、現地作業で培った経験や知識も必要であることから高齢人材にも適した仕事です。

イメージ図



出所) KDDIスマートドローン株式会社のHP



③VR等を活用したものづくりの技能継承

長年の経験と知恵の結晶である熟練者の技能を次の世代に継承することは、伝統工芸など製造業の喫緊の課題です。VR（仮想現実）の技術を用いることで、熟練者が体験する世界をヘッドセットを装着した人に仮想空間として再現できることから、高齢人材の積極的な関与が今後期待されます。

南部鉄器の製造工程をVRで学ぶ学生



出所) 宮城大学のHP



イメージ図

④AIのアノテーション業務

アノテーション業務とは、AIが学習するための画像やテキストなどの「教師データ」にタグやラベルなどの意味を付与する仕事です。多くの情報を高品質に処理する必要があり、豊富な語彙力や勤勉さなどの高齢者の特徴を活かすことができ、かつリモートワーク可能な仕事として注目を集めています。

AI



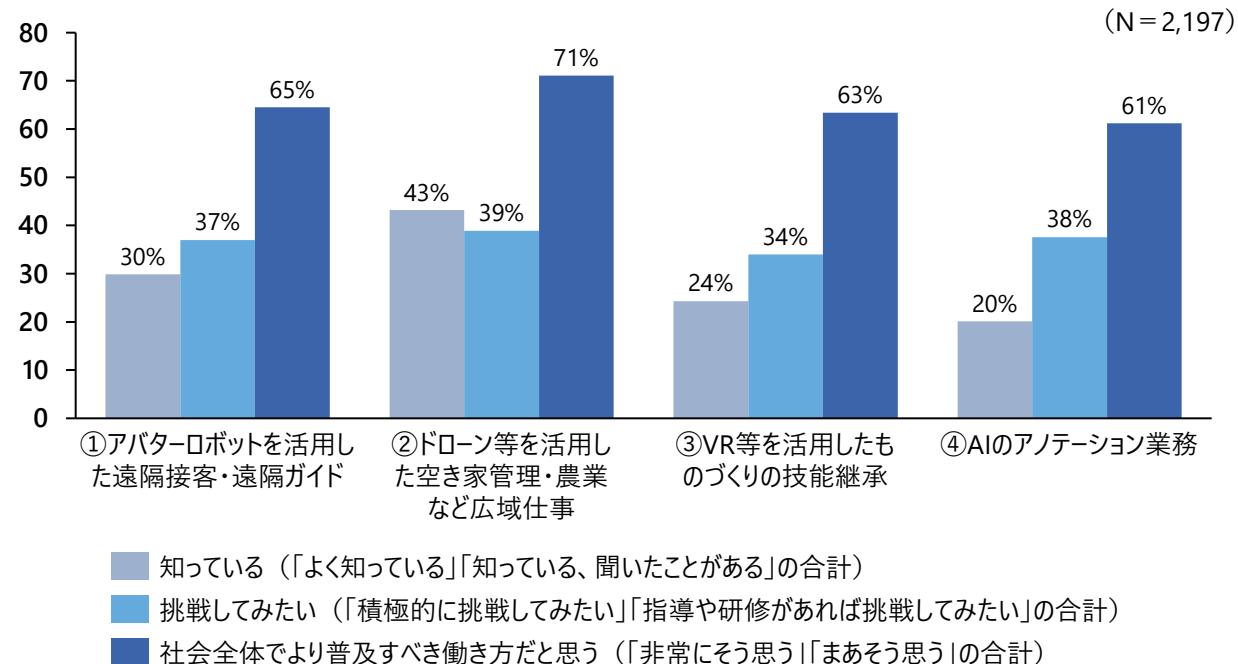
イメージ図



具体的な事例を提示して聞いたところ、各働き方の認知度は高くないものの、高齢期の働き方として、社会全体でより普及すべきと考えている人は6割以上も存在した

- 認知度は、「よく知っている」と「聞いたことがある」をあわせて、どの事例も2～4割程度であり、決して高くない。
- 自分ごととして「挑戦してみたい」と回答する人は3～4割程度だが、さらに社会全体としての意見を問うと、どの事例も6割以上が「より普及すべき働き方」と回答している。

前頁で掲載した事例それぞれについての認知度、挑戦意欲、
高齢期の働き方として社会全体でより普及するべきか



回答者の現在の職種別で傾向を分析すべく、厚生労働省「賃金構造基本統計調査の新職種区分案」に基づいて以下の5つの職種に分類した

■ 本調査では、テクノロジー活用の受容性や課題を詳細に把握するため、回答者の職業を業務特性に基づいて以下の5つに分類した。

職種分類	想定される職業の具体例
1	管理的職業
2	専門的技術的職業
3	事務的職業
4	販売・サービス職業
5	技能的職業

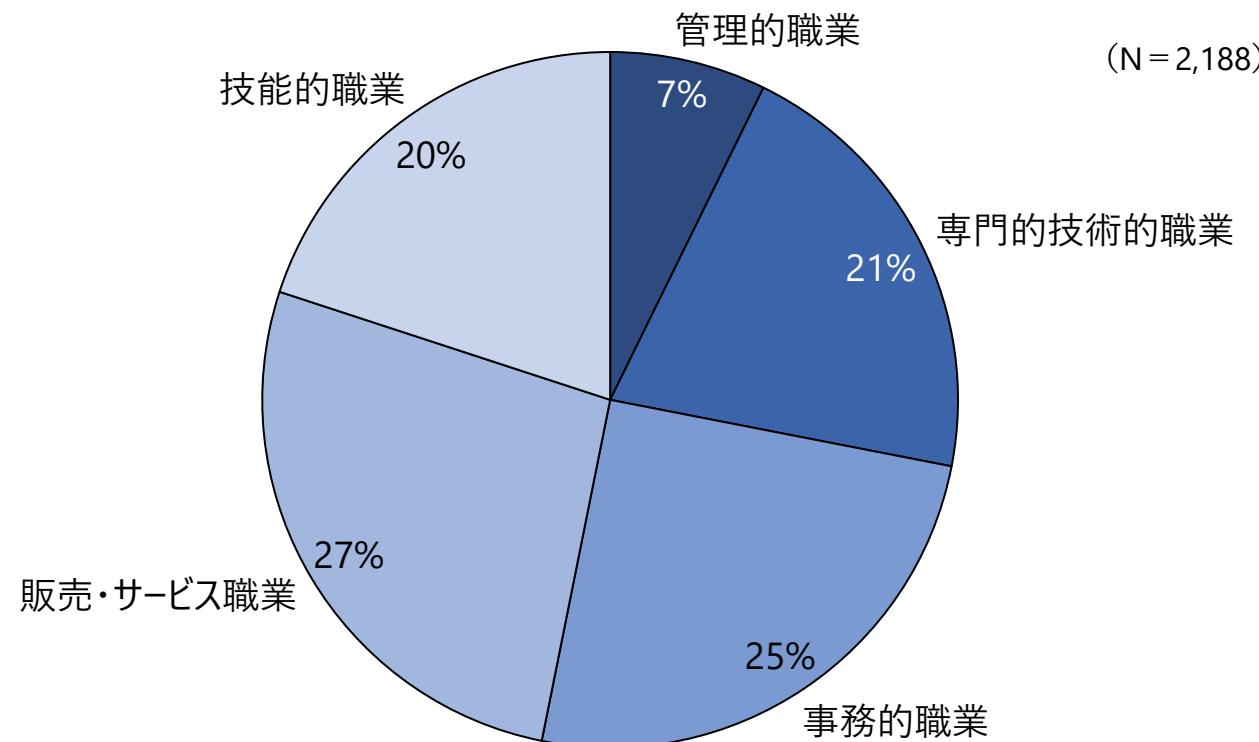
※④販売・サービス職業は、厚生労働省の「賃金構造基本統計調査の新職種区分案」の販売、サービス職業に、⑤技能的職業は、同じく、保安職業、農林漁業、生産工程、輸送・機械運転、建設・採掘、運搬・清掃・包装等に対応する

本調査のアンケート回答者であるプレシニア就労者の職種構成は、「販売・サービス職業」と「事務的職業」で過半数を占める

- 「販売・サービス職業」が27%で最も高く、次いで「事務的職業」が25%となり、この上位2職種で全体の約半数(52%)を占める。
- 「専門的技術的職業」、「技能的職業」が上記に続き、「管理的職業」は7%と最も構成比が低い。

本調査のアンケート回答者における職種分類の構成比

(※職種分類が特定できない人を除く)

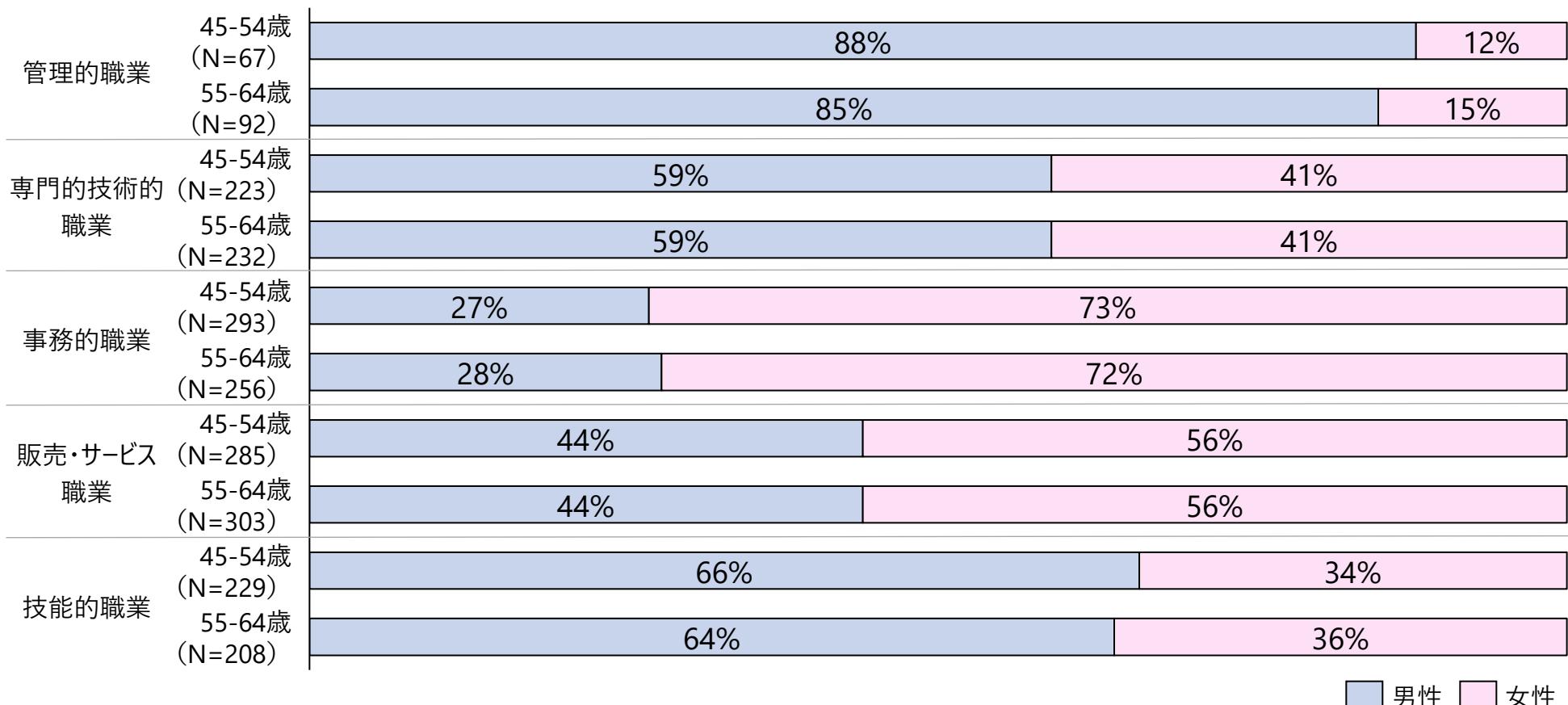


アンケート調査結果 | 回答者属性 | 職種・年代別の男女構成比

プレシニア就労者の職種別構成は、管理的、専門的技術的職業は男性比率が、事務的、販売・サービス職業は女性比率が高く、いずれも年代による差はほぼない

- 職種分類の特性に応じて、男女の構成比には特徴的な傾向がみられる。
- どの職種においても、45-54歳と55-64歳の間で男女の構成比に大きな変化は見られない。

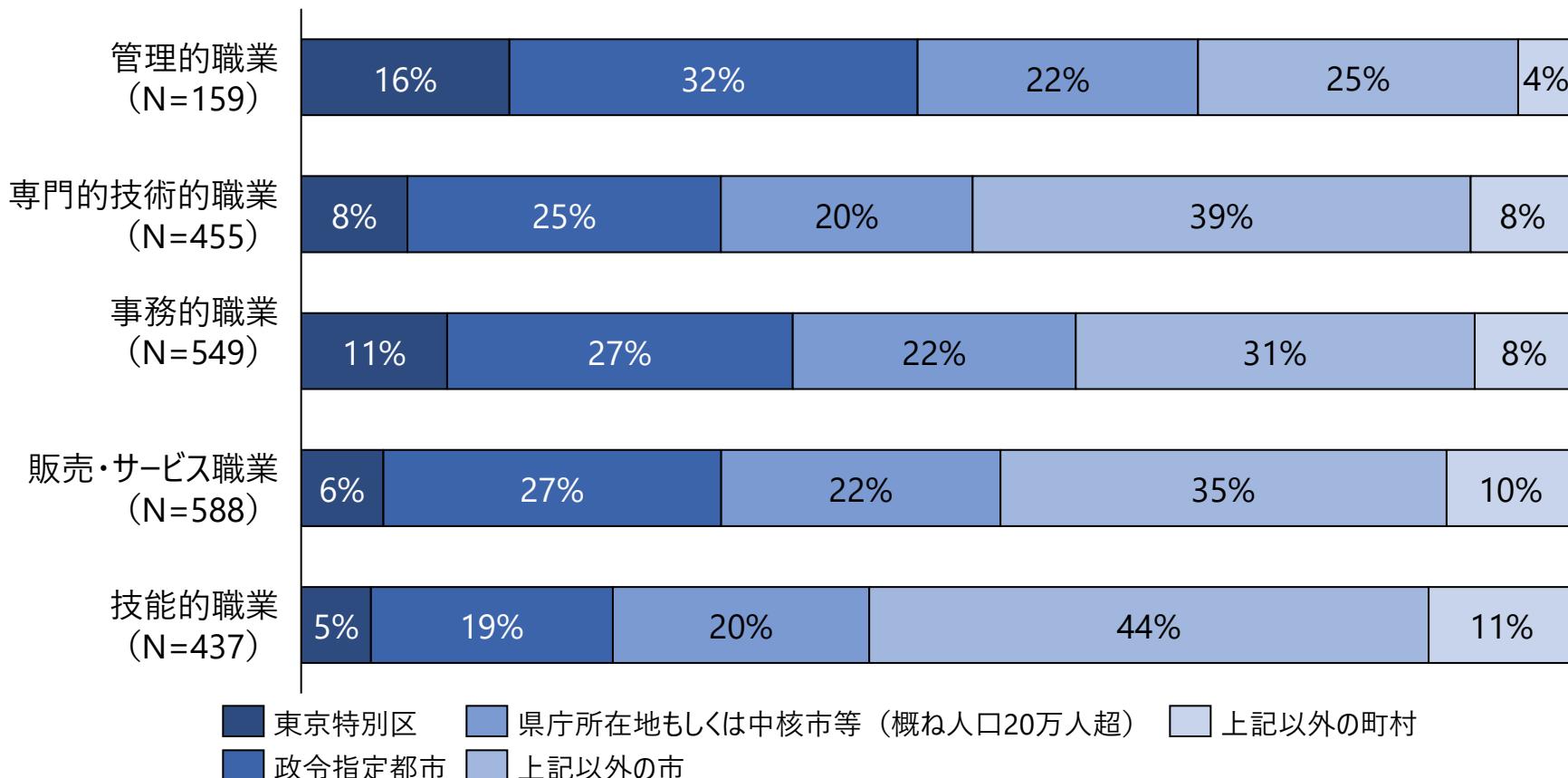
アンケート回答者の職種分類・年代別（45～54歳／55～64歳）における性別内訳



職種別に居住地域をみると、管理的職業は都市圏に多い一方、技能的職業は地方部に多く、職種分類は居住地域の特性も反映すると考えられる

- 「管理的職業」は、都市圏（東京特別区、政令指定都市、県庁所在地もしくは中核市等）に7割が集中している一方で、技能的職業は半数に満たず、半数以上は地方部（上記以外の市・町村）に広く分散している。

本調査のアンケート回答者の居住地域内訳（職種分類別）

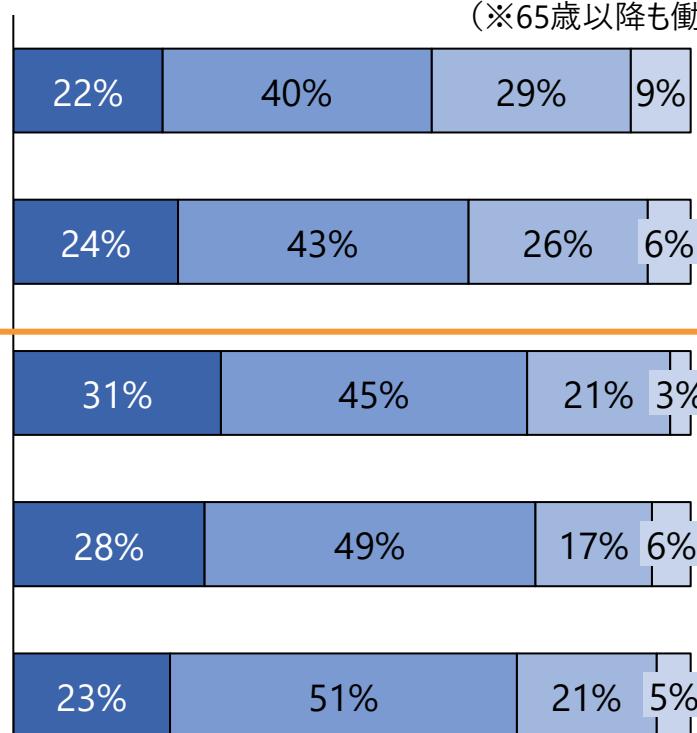


アンケート調査結果 | 体力の低下や健康状態の悪化などの不安（職種別）

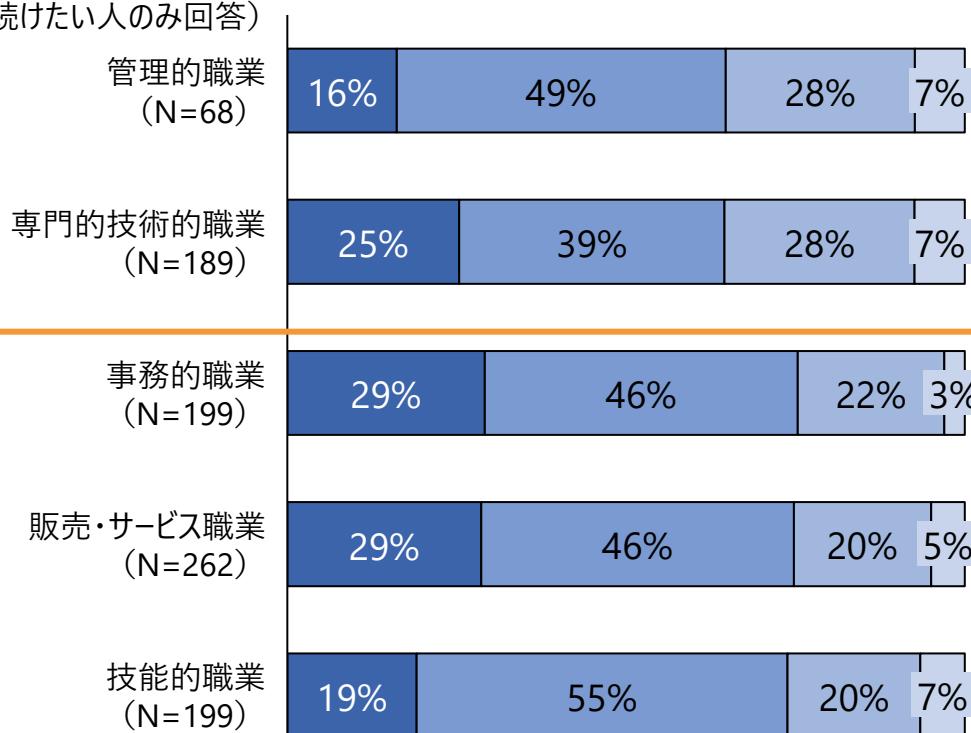
現場で身体を使う仕事の多い販売・サービス、技能的職業や、女性比率が高い事務的職業では、65歳以降も働き続けることに対し、7割以上が体力・健康面の不安を抱えている

- 65歳以降も働き続けたい人の中でも、所定の日数・時間で働くことや通勤に関して、体力・健康状態面で不安を感じる人の割合は、管理的、専門的技術的職業と比較して、事務的、販売・サービス、技能的職業が高い。

65歳以降も働き続けるときの、「体力の低下、健康状態の悪化等により所定の日数・時間で働くことが困難になる」ことへの不安



65歳以降も働き続けるときの、「体力の低下、健康状態の悪化等により通勤が困難になる」ことへの不安



■ とても不安に感じる ■ やや不安に感じる ■ あまり不安に感じない ■ 全く不安に感じない

アンケート調査結果 | 生成AIなどのデジタル技術に仕事を奪われる脅威（職種別）

65歳以降も働き続けたいと考える中でも、事務的職業に就くプレシニアは、生成AIが自分の仕事を代替してしまうことへの不安を大きく感じている

- 事務的職業は、「生成AIなどのデジタル技術により仕事を奪われてしまう」ことが不安だと回答する割合（「とても不安に感じる」「やや不安に感じる」の合計）が5つの職種の中で突出して高く、唯一5割を超える。

65歳以降も働き続けるときの、「生成AIなどのデジタル技術により仕事を奪われてしまう」ことへの不安

（※65歳以降も働き続けたい人のみ回答）

管理的職業
(N=68)



専門的技術的職業
(N=189)



事務的職業
(N=199)



販売・サービス職業
(N=262)



技能的職業
(N=199)



■ とても不安に感じる ■ やや不安に感じる ■ あまり不安に感じない ■ 全く不安に感じない

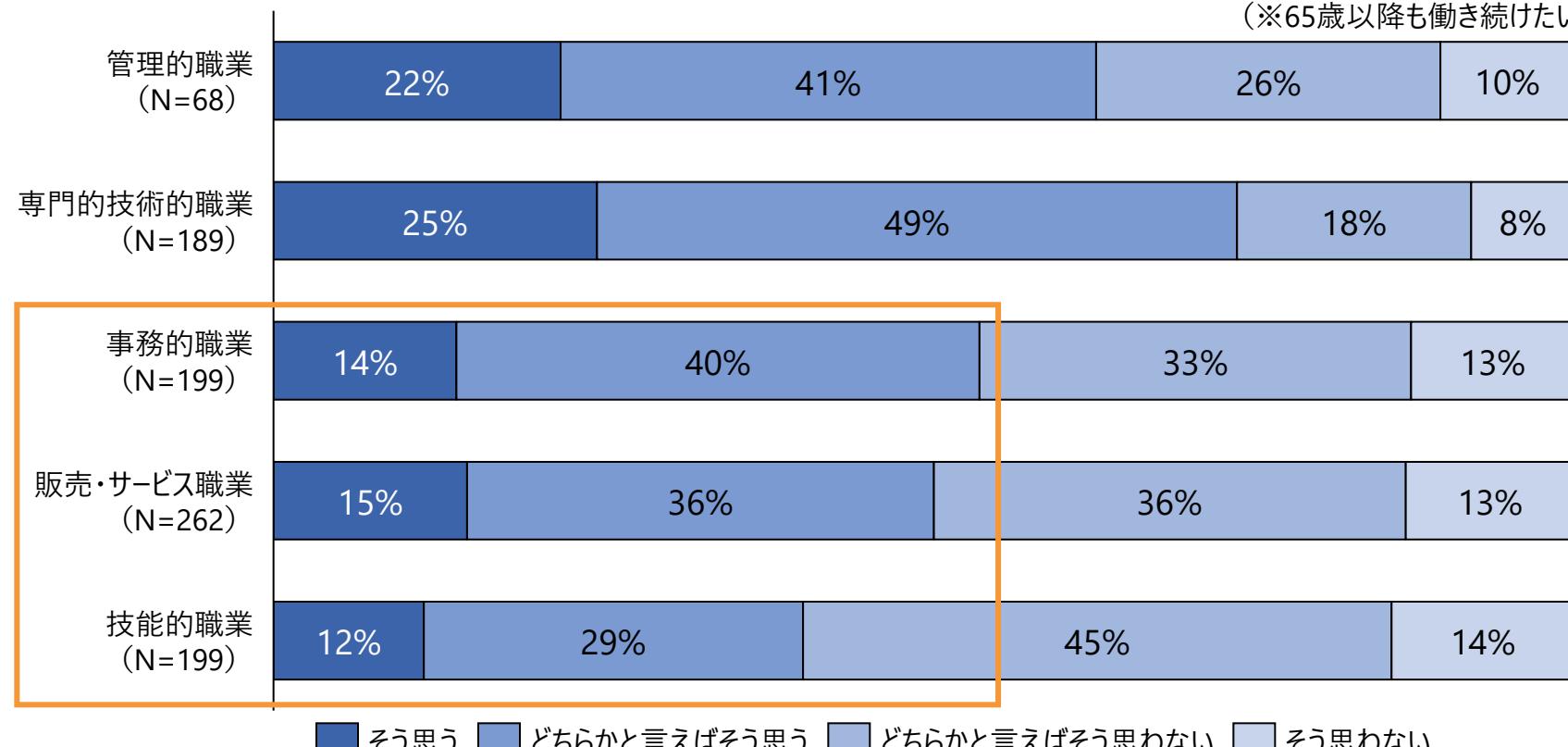
アンケート調査結果 | 新たなスキルや知識を学ぶ意欲（職種別）

事務的、販売・サービス、技能的職業は、65歳以降に「新たなスキルや知識を学び、仕事で活かしたい」という意欲が他の職種と比較して低く、テクノロジー導入の心的障壁が高い

- 管理的職業、専門的技術的職業は、「新たなスキルや知識を学び、仕事で活かしたい」と回答する人が6割を超える（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計）のに対し、事務的、販売・サービス、技能的職業は、半数程度または半数以下であり、職種による違いが大きい。

65歳以降の働き方として、「新たなスキルや知識を学び、仕事で活かしたい」という意欲の強さ

（※65歳以降も働き続けたい人のみ回答）

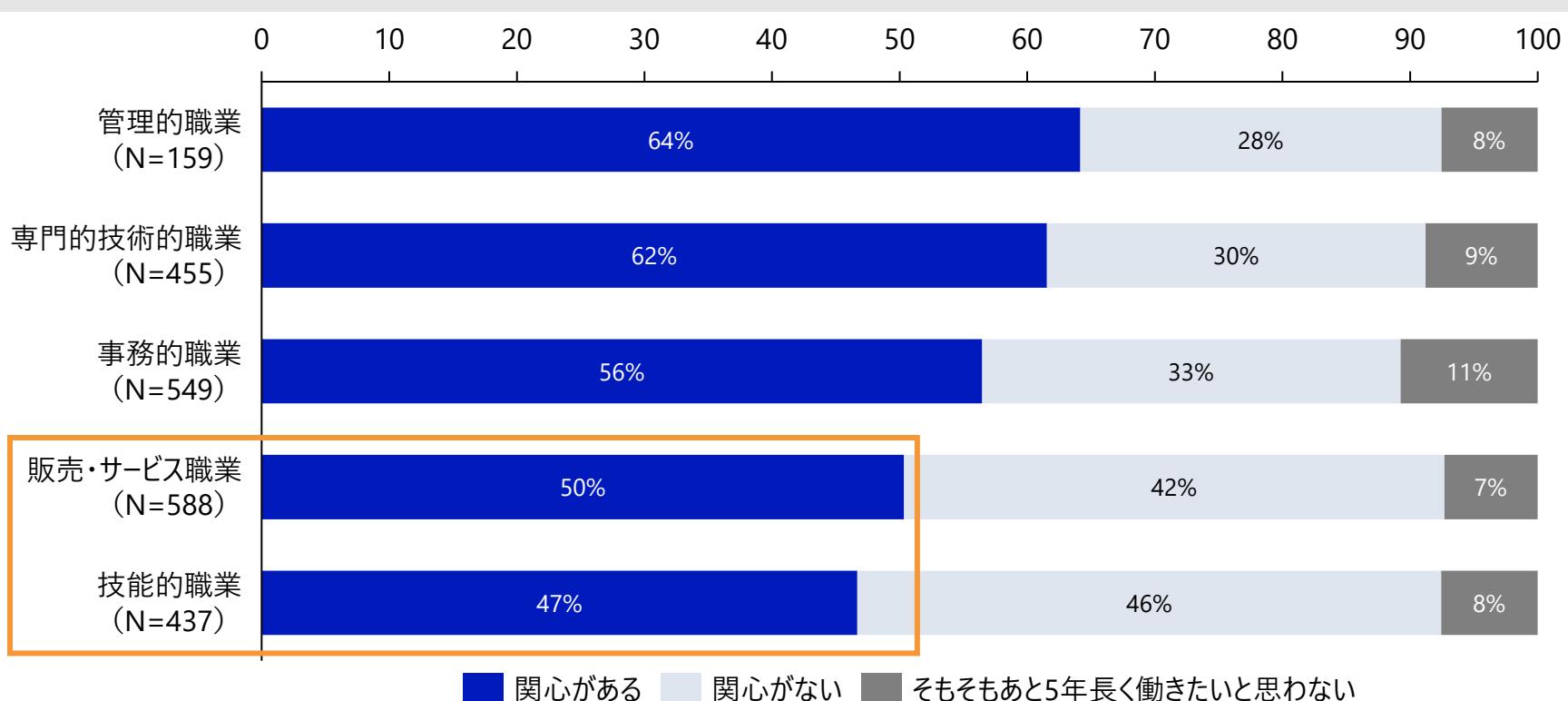


アンケート調査結果 | テクノロジーやデジタル技術を活用してより長く働くことへの関心（職種別）

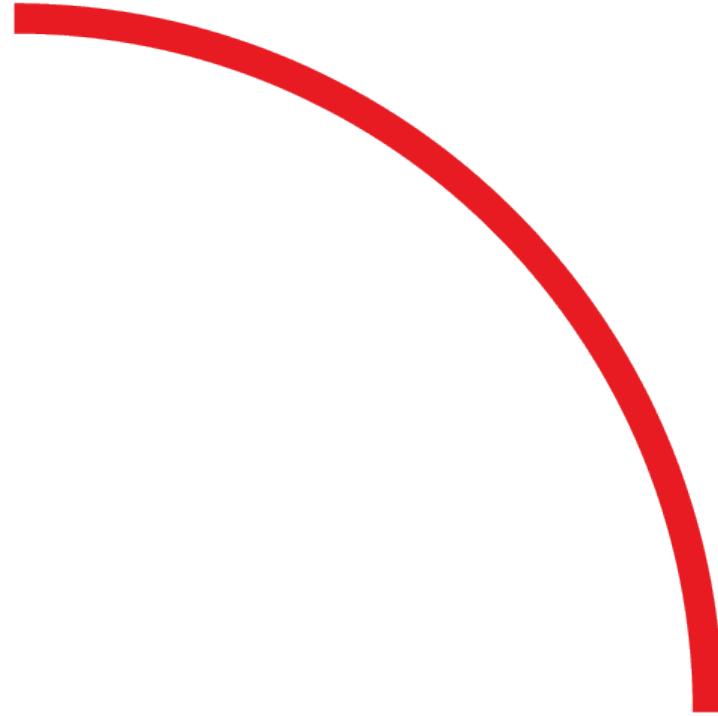
販売・サービス、技能的職業では、テクノロジーを活用した就労への関心度が低いが、新たな働き方への認知や普及が進むことで関心が高まり、就労機会を獲得できる可能性がある

■ 販売・サービス、技能的職業では、「テクノロジーやデジタル技術を用いてより長く働くことへの関心」が半数もしくはそれ以下であり、他の職種と比較して低い。但し次章で後述するように、それらの職種において広がりつつあるテクノロジー活用の可能性を知ることで、働きたい意欲をもった人が働き続ける機会が増えることが期待される。

テクノロジーやデジタル技術を用いることで想定しているよりあと5年長く働くとしたときの、
テクノロジーやデジタル技術を用いた働き方への関心

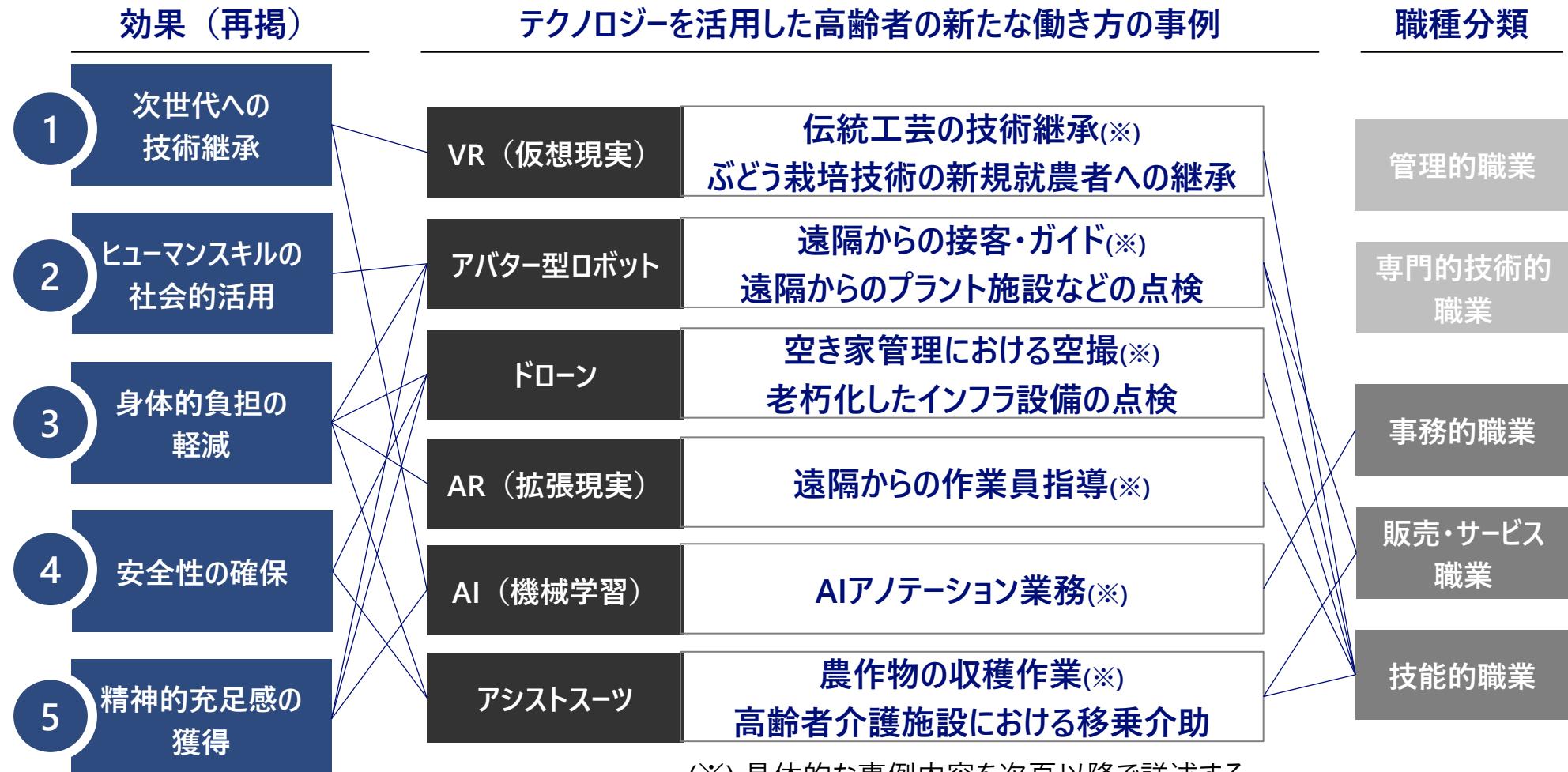


先進事例調査結果



先進事例調査結果

テクノロジーを活用した高齢者の新たな働き方の具体的な先進事例が、販売・サービス職業や技能的職業においてもうまれつつある



南部鉄瓶の製造工程をVR技術で再現し、職人の技を可視化・保存する宮城大学の取組みは、将来的に次世代への技術継承やブランディング、人材確保などへの効果が期待される

1 次世代への技術継承

2 ヒューマンスキルの
社会的活用

3 身体的負担の軽減

4 安全性の確保

5 精神的充足感の獲得

伝統工芸の技術継承（宮城大学の教育プログラム）の概要

- 岩手県の伝統工芸品である「南部鉄瓶」の製造方法を、VR技術を用いて学生に体験してもらう教育プログラム
- 南部鉄瓶の製造・販売を手掛ける盛岡市の地元企業の全面協力のもと、約60年に及ぶ職人歴を持つ同社の技術顧問の精巧な鉄器仕上げ技術をデジタルデータとして蓄積し、教育素材として可視化
- 大型3Dカメラを用いて、実際に職人から見える作業空間をVR画像として取得することに加え、接写カメラを使用して手元の狭い範囲を精緻に動画に残すことで、伝統工芸の技術をVR空間を通じて他者へ共有することができる

南部鉄瓶の工房の様子を
撮影したVR画像



VRゴーグルを装着して南部鉄瓶の
製造現場を体験する宮城大学の学生



出所) ヒアリングよりNRI作成（画像は公立大学法人宮城大学のホームページより引用）

avatarin株式会社のアバター型ロボットは、遠隔操作により高齢者の身体的負担を軽減するのみならず、接客・案内業務における高齢者の豊富な経験やスキルの活用に寄与している

1 次世代への技術継承

2 ヒューマンスキルの社会的活用

3 身体的負担の軽減

4 安全性の確保

5 精神的充足感の獲得

アバター型ロボット（avatarin株式会社の製品「newme」）の概要

- avatarin株式会社のアバター型ロボット「newme」は、操作者が現場から離れた自宅などの場所から、接客や案内・ガイドなどのコミュニケーション業務を、まるでその場にいるかのように丁寧に行うことができる技術である
- 「newme」を通じて、現場経験の豊富な高齢者が、その場にいなくとも来訪者の仕草や表情のわずかな変化を察知し、高品質な接客・案内スキルを活かすことができる
- 2023年には、愛知県でイベント会場に設置された「newme」を遠隔操作し、高齢者が来場者へ出展ブースの紹介や呼び込みを行う実証実験が行われ、事前研修なしでも高齢者が不自由なく操作できることが実証されている

「newme」



高齢者が「newme」の操作を行っている様子



先進事例調査結果 | ドローンによる空き家管理における空撮 | 公益社団法人南砺市シルバー人材センター | 技能的職業 ドローンを活用した南砺市シルバー人材センターの空き家管理サービスは、高齢者の負担軽減 や安全性を担保するのみならず、仕事を通じて高齢者自身の精神的充足感に寄与している

1 次世代への技術継承

2 ヒューマンスキルの
社会的活用

3 身体的負担の軽減

4 安全性の確保

5 精神的充足感の獲得

空き家管理における空撮（公益社団法人南砺市シルバー人材センターの取組）の概要

- 富山県の南砺市シルバー人材センターでは、ドローンを活用した就業会員（平均年齢69歳）による空き家管理サービス（小型のカメラドローンを用いて高所を空撮し、画像を依頼主へ報告するサービス）を提供している
- 就業会員の高齢者は、ドローンの講習会でドローンの操作・空撮の基本的技術と関連する法律の知識を習得し、空撮を就業として実施できるようになり、講習を受け練習を積めば、若い世代と比較しても遜色なく操縦ができる
- 地方部の空き家の増加に伴う地域課題解決への貢献意識や、高所での危険な作業からの解放による安全性の確保、ドローン操縦による知的好奇心など精神的充足感の向上にも寄与している

高齢者が実際にドローンで空撮した写真



高齢者がカメラドローンを操縦して、
空き家管理の仕事をしている様子



先進事例調査結果 | AR（拡張現実）を活用した遠隔からの作業員指導 | 東芝システムテクノロジー株式会社 | 技能的職業 東芝システムテクノロジーの遠隔作業支援システムは、ARを活用し、ベテラン技術者のノウハウを遠隔から現場作業者へ伝授することで、身体の負担軽減や技術継承に寄与

1 次世代への技術継承

2 ヒューマンスキルの
社会的活用

3 身体的負担の軽減

4 安全性の確保

5 精神的充足感の獲得

AR（拡張現実）（東芝システムテクノロジー株式会社の製品「EQSURV Navigator」）の概要

- 東芝システムテクノロジーの「EQSURV Navigator」は、スマートグラス、MRグラスなどを活用し、ベテラン技術者による遠隔作業支援やAR（拡張現実）での作業手順を表示する遠隔作業支援システムである
- 設備保全などの現場作業者と遠隔のベテラン技術者をリアルタイムで繋ぎ、現場作業者の作業や確認したい機器状態などを映像や音声で共有することで、ベテラン技術者の技術ノウハウを現場作業者へ正しく伝授ができる
- 文章で記載・説明するだけではわかりにくいような指示も、映像を活用しながらワイプで表示し、必要に応じてアノテーション（データにタグやラベルなどの注釈をつけること）を行いながらリアルタイムで指導ができる

遠隔作業支援のイメージ



先進事例調査結果 | AIアノテーション業務 | 株式会社ライトカフェ×公益社団法人八戸市シルバー人材センター | 事務的職業 株式会社ライトカフェでは、AIの機械学習の教師データを作成するアノテーション業務の担い手として高齢者を雇用し、高齢者の活躍の場の拡大に貢献している

1 次世代への技術継承

2 ヒューマンスキルの社会的活用

3 身体的負担の軽減

4 安全性の確保

5 精神的充足感の獲得

AIアノテーション業務（株式会社ライトカフェ×公益社団法人八戸市シルバー人材センターの取組）の概要

- アノテーション業務とは、テキストや画像データに意味のあるラベルやメタデータを付与することで、AIの機械学習の教師データを作成する重要な業務である
- 株式会社ライトカフェは、上記のような定型的かつ継続的な業務に対して高齢者の適性を見出し、八戸市シルバー人材センターと連携し、青森県八戸市の支店（株式会社ライトカフェU.）で高齢者へAIアノテーション業務を依頼
- 現在同社では、60代前半～70代後半の女性4人が、文書校正・校閲、ウェブサイトの画面チェックやアプリケーションテストなどのソフトウェア開発の品質管理業務を担当しており、高齢者の活躍の幅が広がっている

高齢者がAIアノテーション業務などを行っている様子



アシストスーツは、人の動作を助け、身体の負担を軽くする装着型の技術であり、農業や物流、介護などの現場を中心に、高齢者の身体的負担の軽減や安全性担保に寄与している

1 次世代への技術継承

2 ヒューマンスキルの
社会的活用

3 身体的負担の軽減

4 安全性の確保

5 精神的充足感の獲得

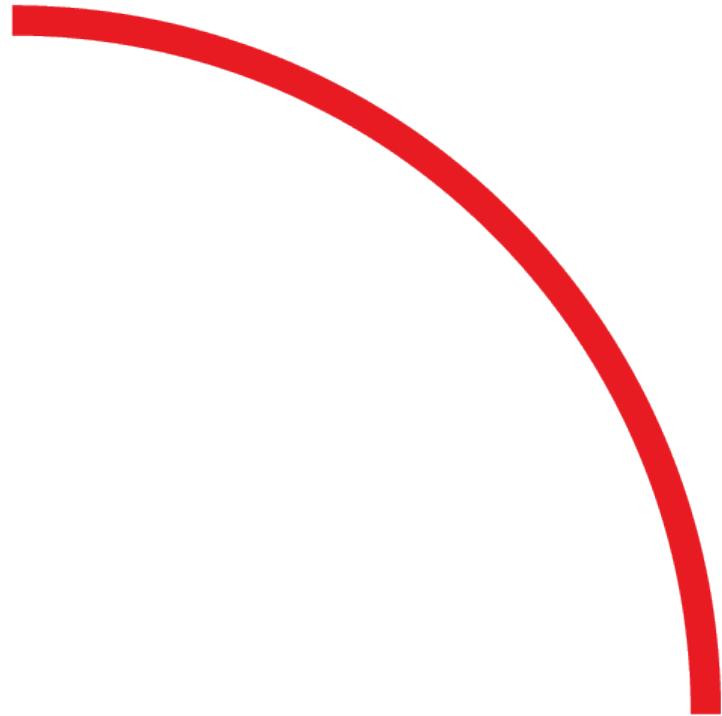
アシストスーツ（株式会社イノフィスの製品「マッスルスーツ」）の概要

- アシストスーツとは、人の動作を助け、身体の負担を軽くする装着型の技術であり、特に株式会社イノフィスの「マッスルスーツ」は、電気を一切使わない「空気圧式人工筋肉」を採用しており、誰でも簡単に装着・使用ができる
- 「マッスルスーツ」には、最大約30kgの補助力を発揮する外骨格型モデルや、軽量で動きやすさを重視した内骨格型モデルなど、ユーザーのニーズに合わせた幅広いラインナップがあり、重い物の持ち上げや中腰姿勢での作業時に、身体への負担を大幅に軽減する効果がある
- 介護現場での活用から始まり、現在では農業・林業、物流など、幅広い業界で活用されている

農作物の収穫作業での活用イメージ



調査まとめと今後への展望



調査まとめと今後への展望

テクノロジーを活用した高齢者就労の新しい在り方について普及・啓発を進めつつ、その効果検証や実証実験が必要

調査まとめ

■ どの性年代でもプレシニア就労者のテクノロジーやデジタル技術を活用した就労に対する関心は高く、社会全体として新しい働き方が普及することの必要性も感じている

- 具体的な就労イメージに対しては、認知度が低いものの、各働き方に対して「挑戦してみたい」という意欲も一定数みられ、社会全体としても普及すべき働き方として認識している。
- 一方で、関心度の男女差が見られたため、関心が低めの高齢層女性（55-64歳）に対する導入支援のサポートは必要である。

■ 体力・健康状態面を考慮すると、販売・サービス、技能的職業や女性の多い事務職こそテクノロジーやデジタル技術を活用した就労が有効であるにも関わらず、関心や活用意欲が逆に低い

- 65歳以降も働き続けたい人の中でも、販売・サービス、技能的、事務的職業では7割以上が体力・健康状態面で不安を抱えている。
- また、事務的職業に就くプレシニアの約6割が、生成AIに仕事を奪われてしまうことへの不安を感じている。
- 新たなスキルや知識を学ぶ意欲も、当該職種は他の職種と比較して低く、テクノロジー導入のハードルが高い。

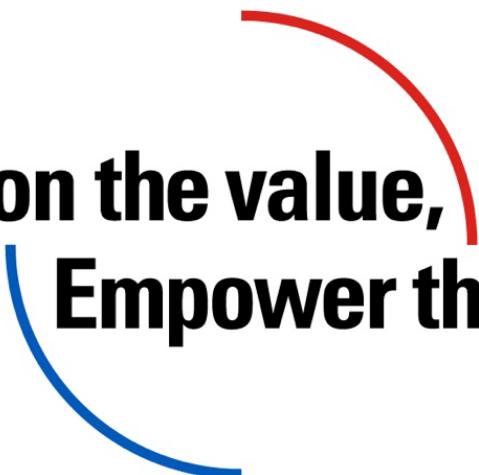
今後への展望

①具体的で正しいイメージを持ってもらうために、広報による認知度向上やその効果検証が必要不可欠

- ✓ 先進事例のような高齢者の新しい働き方を普及・啓発するとともに、中長期的視点にたった効果検証として、高齢者がテクノロジーやデジタル技術に触れ、学ぶことが幸福度や生きがいや、医療費の抑制など社会保障に与える影響、経済的効果などについて、定量的にモニタリングする試みが重要。

②テクノロジーやデジタル技術開発側と高齢者雇用側のマッチングをはかるべき

- ✓ テクノロジーやデジタル技術を開発する企業サイドは高齢者就労にテクノロジーが活用不可欠であることに気づいていない場合が多い一方で、高齢者の雇用について制度面から検討している企業の人事部は、技術によって高齢者雇用の問題が解決に向かう可能性が大きいとは捉えていない。
- ✓ 高齢者雇用の政策立案側は上記の課題の解決に向けて、協業機会を増加させるための実証実験を行うなど、両者のマッチングを図ることが一つの促進策として考えられる。



**Envision the value,
Empower the change**